

令和6年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	壮志会
事 業 名	先進地視察 上松町産業観光課、TARO FARM 上松才児農場
事 業 区 分	①研究研修 ②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

タローファームは市内で長く養豚業を営んでいる。この度、長野県上松町に甲信越最大規模の養豚施設に着手し、本年12月の完成を目指して整備を進めているため視察を行い、今後の参考に資する。

2 実施概要

	実施日時	視察先	長野県木曾郡上松町
	令和6年5月23日(木) 午前9時～ 午前11時	担当部局	上松町産業観光課 横井 実 課長 タローファーム株式会社 代表取締役 小川哲生 氏
報 告 内 容	1 町の概要 上松町は、木材産業を中心とした成り立ちを持つ森林の町として古くから栄えた歴史を有している。中心部を木曾川、JR中央線、国道19号線が南北に通過しており、おもな産業は、木材・木工・農林業で、良質な木曾ひのきを産出する町である。現在は、自動車部品を製造する企業が誘致され、主要な産業の一翼を形成している。人口は、4451人（2019年3月）で人口減少が進んでいるため、雇用を伴う産業振興の町づくりが進められている。		
	2 視察項目 甲信越最大規模の養豚施設について 「上松町産業観光課」説明者 横井 実 課長 (1) タローファーム上松農場の経過について ①タローファームからの申し出に上松町との共通点があった。 ・上松町寝覚の床には浦島太郎伝説があり、タローファームと名称が共通している。 ・農場予定地の住所が上松町大字小川であり、タローファームの経営者と同様である。 ②地元説明会の状況について ・4回の地元説明会を行ったが、甲信越最大の豚舎に対する期待が大きい。 ・役場、商工会等からは雇用と特産品として地域活性化に期待する声が多い。		

- ・町の年間出生数は10数名のため、雇用により町外からの新規就農者に期待する声が大きく消防団員等への加入による地域活性化が見込まれる。
- ・町の固定資産税による収入増が見込まれる。
- ・猪や猿の病気の感染が心配との配慮する意見もあった。
- ・臭気については、木曾は古くから馬や牛の臭気に慣れているので特に意見はなかった。
- ・人家は豚舎から2kmは離れており周辺は山林となっている。
- ・豚舎は役場から10kmの標高千メートルの山林内にあるため、林道併用の道路整備を国及び町で進めているが、事業主からの寄付もある。
- ・排水はラクーンで浄化処理を行うため一日10トン使用するが、下流域での問題はない。また、大雨でも1週間から3週間は対応可能。
- ・上松町には養豚事業者はいない。
- ・長野県からも積極的に協力を得ている。

(2) タローファーム上松才児（あげまつさいちご）農場について

- ・標高千メートルの山林内にあった元牧場跡地の敷地面積9.9ha内に設置を行う。山林内の道路拡幅等が必要なため、道路整備に協力している。
- ・集落は3軒（対象は14軒）の限界集落となっている。
- ・全国で家畜農家は減少しているが、養豚業が一番安定している。豚熱が心配なので敷地外に豚の出入りを行う場所を設置して、感染対策を講じている。
- ・養豚は誕生から出荷まで8ヶ月と効率性が高い。（牛は1年半で出荷）
- ・水質はラクーン（浄化装置）で処理を行い、24時間のデーターは出るが、水質検査を年3～4回予定している。
- ・堆肥は無料で配布したいが、他の事例もあるので検討したい。
- ・養豚施設は最新鋭の施設で甲信越最大規模の施設として建設を進めている。
- ・新設 上松才児農場 母豚800頭一貫
- ・常時 8,000頭～10,000頭
- ・年間出荷頭数 24,000頭
- ・地元説明会 4回実施したが期待感が強かった。産業として雇用に期待。
- ・施設 豚舎5棟、母豚棟1、飼育棟1 合計7棟
- ・総事業費 26億円 先端技術導入、未来法での減免を申請。82銀行も養豚施設に対して初めての出資を行う。
- ・施設竣工 本年12月の完成を目指している。



- ・出荷 令和7年1月から出荷したい。令和7年4月から月2,000頭を出荷予定。
- ・方針 養豚業は産業としての成長性が高いので中山間地の救世主として、養豚業を成長産業にしたい。
- ・地域貢献として 雇用創出、納税。
- ・生産として豚肉2000トン、耕畜連携。
- ・経営として企業養豚、成長拡大を目指している。

(3) まとめ

我が国の養豚産業は小規模層では減少しているが、大規模化が進展している。肉の需要は堅調に推移している。家畜産業が抱える課題には、担い手不足、暑熱負荷、防疫、悪臭、飼料の高騰などあるが、臭気は、住宅地域では住民が生活していくうえで深刻な状況となっている。上松農場は、山林内の元牧場内に最先端施設を導入して整備されるため、影響は少ないとの説明があった。今後本格的な稼働が行われた場合の状況について、地域振興も含めて検証したいと考える。

